

**問** 警報に対する認識と  
事前の対応は

**答** 事前情報提供について  
反省点多い



光風会代表  
岸本 義明

**問** 今年各戸に配布された「ハザードマップ」には「1時間雨量30mmが予測される場合は注意報(30〜50mmではバケツをひっくり返したような雨で道路が川のようになる)、それを超える60mm(滝のような雨がゴーゴーと降り続き様々な災害が起こりやすくなる)」が予測される場合には警報が出される」と書いてあります。8月9日午後2時15分、大雨・洪水警報が播磨北西部(宍粟市・佐用町)に発令されました。市の防災計画には「警報が出された時には災害対策本部の設置及び職員の配備体制等に付き市長の指示を仰ぐ」となっています。しかし今回、千種・一宮市民局の配備が夜9時30分、対策本部の立ち上げは10時でした。その間7時間

余、市長はどんな判断をされたのですか。認識が甘かったのではないですか。

警報発令後すぐに対策本部を立ち上げ、昼間の早い段階で、市民に対して警報の重大さ、60mm雨量の恐ろしさを含めた防災の呼びかけをしておれば、車や家財等の損害は少なからず免れたかもしれません。幸いにも人命に係わる事故がなかったのですが、今回の対応は遅すぎて不十分です。

**副市長**

言われる通り、事前準備のための早い段階での情報提供という面で反省すべき点が多々あります。

**問**

今回の災害からどんな教訓を得ましたか。

**市長**

早い配備体制、避難勧告の前に避難準備情報、市と自主防災組織、消防団の連携、浸水想定箇所の市民への徹底、災害危険箇所や河川・道路の緊急工事必要箇所の整備、対策本部の早期立ち上げ、国県等の防災機関への早期要請、などです。

災害復旧に日夜対応した職員、被災地域へ入って直接被災者の生の声を聞いた職員、そうした貴重な体験を通して職員が感じたこと、意見、提案を防災計画見直しに役立てるべきだと思えます。

**問**

体験を通して得た職員の声や地域の声を十分に反映したマニュアル作りをします。

**副市長**

全国学力テストで、市内の学校の総合的な結果と学校別公表、テストの意義について教育長の見解をお聞きします。

**問**

全国・県と比較して国・数ともに小学校は平均、

**教育長**

全国・県と比較して国・数ともに小学校は平均、

中学校は上です。学力の一部だけのテストであり、少数の学校もあり学校別の公表は致しません。テストは教育改善の機会として、学習と生活習慣との関連など指導に生かす資料としての意義があります。



千種中学校で